

東日本ユニオンにいがた

http://www.geocities.jp/higashinihonunion_niigata/

JR東日本労働組合新潟地方本部

2018年7月10日発行

第32号（通巻第96号）

発行者：星山 圭 編集者：教育・広報部

東日本ユニオンに 結集しよう！



**各地で新たな仲間が
続々と加入しています！**

異動に際して「人事交流」と説明を受けた社員と
◆ ◆ ◆
なげ職場により説明が
統一されていないのかを
職場では「〇年で帰す」
「必ず戻れる」とも説明さ
れていることから、異動し
た社員は元の職場に戻る
のかを質すと支社側は、何
年か帰って来られるかは
何も言えず、指令や支社に
行く社員も出てくると回
答しました。

なげ職場により説明が
統一されていないのかを
職場では「〇年で帰す」
「必ず戻れる」とも説明さ
れていることから、異動し
た社員は元の職場に戻る
のかを質すと支社側は、何
年か帰って来られるかは
何も言えず、指令や支社に
行く社員も出てくると回
答しました。

なげ職場により説明が
統一されていないのかを
職場では「〇年で帰す」
「必ず戻れる」とも説明さ
れていることから、異動し
た社員は元の職場に戻る
のかを質すと支社側は、何
年か帰って来られるかは
何も言えず、指令や支社に
行く社員も出てくると回
答しました。

なげ職場により説明が
統一されていないのかを
職場では「〇年で帰す」
「必ず戻れる」とも説明さ
れていることから、異動し
た社員は元の職場に戻る
のかを質すと支社側は、何
年か帰って来られるかは
何も言えず、指令や支社に
行く社員も出てくると回
答しました。

水道設備改良・エアコン修理を実現！

申16号・東新潟駅の設備改善に関する申し入れ団体交渉

新潟地本は6月20日、申16号・東新潟駅の設備改善に関する申し入れについて団体交渉を行いました。
(株)ジェイアール新潟ビジネスに出向し東新潟駅で働いている社員から寄せられた駅設備の改善を求める声に基づき、4月23日に申16号として新潟支社に対して申し入れを行っていたものです。
申し入れを通じて求めていた、東新潟駅の多目的トイレの水道設備の改良、事務室内の故障したエアコンの修理を実現しました。

多目的トイレの水道設備について、蛇口に清掃用のホースを直接取り付けられるように改良を求めていましたが、6月12日に新たに清掃用の蛇口が付いたことを確認しました。
一方で、排水能力が低いという問題については法律によるガイドラインがあり、これ以上の勾配をつけることは不可能との回答が示されました。
地本交渉団は、排水口自体が小さいのではないかと指摘しましたが、支社側は他の駅も同じ基準で作っており、改善の予定はないとの考えを示しました。
事務室内の故障したエアコンを早急に修理する

新潟地本は6月20日、申15号「安全・安定輸送、及び技術継承に関わる人事運用のあり方に対する申し入れ」について団体交渉を行いました。
ベテラン運転士を対象に行われた異動に関して当該社員は勿論のこと、送り出し、迎え入れ職場双方の現場管理者や指導担当を含めた社員から多くの疑問の声が上がったことから、施策の目的や到達点、克服すべき課題などについて労使間での議論を通じた認識一致を図るため申し入れを行っていたものです。

異動に際して「人事交流」と説明を受けた社員と
◆ ◆ ◆
なげ職場により説明が
統一されていないのかを
職場では「〇年で帰す」
「必ず戻れる」とも説明さ
れていることから、異動し
た社員は元の職場に戻る
のかを質すと支社側は、何
年か帰って来られるかは
何も言えず、指令や支社に
行く社員も出てくると回
答しました。

なげ職場により説明が
統一されていないのかを
職場では「〇年で帰す」
「必ず戻れる」とも説明さ
れていることから、異動し
た社員は元の職場に戻る
のかを質すと支社側は、何
年か帰って来られるかは
何も言えず、指令や支社に
行く社員も出てくると回
答しました。

なげ職場により説明が
統一されていないのかを
職場では「〇年で帰す」
「必ず戻れる」とも説明さ
れていることから、異動し
た社員は元の職場に戻る
のかを質すと支社側は、何
年か帰って来られるかは
何も言えず、指令や支社に
行く社員も出てくると回
答しました。



かしたいとし、交渉団は社員の健康管理もあるので早急にお願したいと要請しました。
東新潟駅に勤務するエルダー組合員が、委託先であるJNBに繰り返し改善を訴えてきたにも関わらず進展が見られないうえに労働組合を通じて要求した内容であることから、東新潟駅社員からの一報は、業務に行くのかを質すと支社側は、基本は管理で修繕の手配をかける」と回答しました。

新潟地本は6月20日、申12号「電力職場の要員に関する緊急申し入れ」について団体交渉を行いました。
慢性的な要員不足に加えて各種研修、出張や会議、さらに今冬期は列車巡視によるチーム上の積雪状況把握を指示され地上障害復旧の要員がいなくなると、深刻さを増している電力職場における要員問題の改善を求めて申し入れていたものです。
今冬は長岡、新潟、越後湯沢で要員が6名ショートし、冬期対応等で自分の仕事もできず、健康や安全も担保されていなかったことを指摘し、現場から悲痛な声があがっていることを理解すべきと訴え、支社側も了解としました。
要員はどのように把握しているのか質すと支社側は、欠員数のある職場を

出ることには認識しているとして、そのような点については計画を立てていきたいとしました。
その上で、技術や担当線区の把握など経験を持つ指導操縦者経験者が転勤して厳しい状況はわかったが、次の若い世代の方が指導操縦者になりなるとの考えを示しました。

要員問題は安全問題と訴える

電力職場の要員に関する緊急申し入れ団体交渉

